

## クライアント・設計者・施工者、携わる全員にとって 意味のある仕事にしていきたい

—現在の仕事内容を教えてください。

案件毎に異なるクライアント要望に応える。

設備設計部第1グループに配属しており、非住宅用途の建築物は何でも担当します。私は現在工場、学校、商業施設、物流倉庫、官庁施設の案件を担当しています。案件により業務のフェーズも異なり入札案件や基本設計、実施設計、工事監理の業務をしています。設備設計の中でも機械設備(空調設備、換気設備、給排水設備)を担当しています。クライアントの要望をヒアリングしながら必要な設備を決めています。工場案件ではクリーンルームや恒温恒湿室、倉庫案件では冷蔵冷凍室など一般的な居住用の空調とは異なり生産用の特殊な空調設備を必要とします。どのような空調仕様で要件を満足できるのか検討し、設計図に反映していきます。また、学校案件での体育館の空調は大空間の空調ですので気流・温度シミュレーションを行いながら検討をしていきます。工事監理では計測を行い、要望された空調条件を満足できているかを確認します。



—そんな中でやりがいと感じることはどんなことですか。

建物が機能した時の達成感

先ほど述べた以外にも研究施設、図書館、ホール、事務所、展示施設など様々な用途の案件を担当してきました。用途が異なれば初めてのことも多く勉強しなければいけないことも多いですが、その分達成感も大きくなりますし、多くの経験ができて成長を感じられます。設備はクライアントの要望が満足できているか実際に設備機器が稼働してからでないと分からないことも多いので工事中も不安なところがありますが、要求通りに建物が機能し、皆様に使って頂いているときに達成感を感じられます。また、施工が始まると施工担当者や協力業者など関係者が多くなります。竣工間際など繁忙期もありますが、1つの建物を完成させるために一体となって取り組んでいますので、完成した際に喜びをみんなで共有できた時にも達成感を感じます。

8:30	■ 出社
9:00	■ チームミーティング 作業内容の確認、担当物件の状況報告
10:00	■ 図面打ち合わせ 外注事務所と作図方針の確認
12:00	■ 昼食 お弁当を持参、栄養満点です
13:30	■ 現場検査 施主要望に沿ってできているかの検査及び品質上の問題がないか上長と確認
16:00	■ 施工図チェック 協力会社と打ち合わせをしながら仕様を決める
18:00	■ 資料作成 施主打ち合わせで説明したい内容の資料作成
19:00	■ 退社



松坂 総太 2012年入社 設備設計(機械設備担当)

入社後、マンションなどの施工管理を経験し、2015年から設備設計部設備設計グループに配属。工場、事務所、物流倉庫など幅広い案件に携わる。施工管理の経験を活かし、施工性の良い設計を心掛けている。

—仕事をする上で大切にしていることはどんなことですか。

クライアント、設計者、施工者がwin-win-win

設計という仕事はクライアントのために要望を形にすることですので、実際に完成した時にクライアントのイメージ通りの建物を作ることを目指しています。イメージのズレをなくすことが大切ですので、まずはしっかりとヒアリングして、提案・設計内容を丁寧に説明していく必要がありますし、イメージを共有しやすい資料作りを意識しています。設計者は最善の提案をするには技術力が必要です。文献、メーカー、協力業者、上司など様々なところから情報収集し、検討を重ねる中で日々知見を増やしていき、自分自身が成長を感じられるようにすることも大切だと考えています。また、設計図はクライアントの要望を反映し切れた仕様が決まったら決まったものでないと工事着手後、施工が円滑に進みません。十分に検討を重ねた設計図を作り、施工性の良い計画にすることも大切な要素です。クライアント、設計者、施工者とプロジェクトに携わるメンバー全員にとって意味のある仕事にしていきたいです。



—この仕事に向いている人物像や学生に伝えたいことはありますか。

仕事の面白さを実感してほしい。

建築はオンリーワンなため物件ごとに要求される内容、必要となる設備は異なります。また、計画-設計-施工と1つのプロジェクトに相当の期間を要します。1人前として物件を担当するには多くの時間と多くの経験が必要になり、入社数年間は分からないことが多く理想通りに仕事ができないことも少なくありません。そんな難しい仕事だからこそ自分の考えた通りに仕事を進められるようになると成長を感じられますし、仕事のやりがいや面白さを感じられるようになります。そのためには時間ばかりですが目の前の“分からない”を1つ1つ乗り越えていくこと、さらに自分が主体性をもって動いて乗り越えていくことが大切なことだと思います。

今後のキャリアについて

グループ全体の設計力向上を目指して

気が付けば先輩より後輩の人数が多くなっており、後輩のサポートも重要な業務になってきています。先輩と一緒に仕事を担当することも多いですが、主体的に業務を担当し多くのことを身に付けてもらい、グループ全体としての設計力向上に意識しています。個人としてこれまで経験していない用途や規模の物件に取り組みたいです。

